



ひかりのこつうしん

「豊かな心を育む造形あそび」

2025 年11月

ひかりの子幼稚園
園長 若槻 三記子

木々の葉も色づき、子どもたちが落ち葉で遊ぶ季節となりました。園では、いよいよクリスマスを待ち望む「アドベント(待降節)」の期間に入りました。クリスマスは、神様が私達を救うために人としてこの世に来てくださったことをお祝いする日です。各お部屋にはアドベントクランツやアドベントカレンダーが飾られ、子どもたちの讚美やうたが響き渡り、子どもたちはもとより職員の心も喜びに包まれています。

年長組は、「クリスマスページェント(聖誕劇)」の取り組みを行っています。子どもたちは、それぞれの役割を担いながら、クリスマスの出来事を体験します。劇の取り組みを通して、ただの行事としてではなく、友達と力を合わせ『初めのクリスマス』がどんなものであったか、またその喜びをお家の方々に伝えようと一生懸命です。神様が私達の喜びの時も悲しみの時も共にいて下さることを心に留め、穏やかにアドベントの日々を過ごしたいと思います。

アドベントクランツには、4本のキャンドルが使われます。クリスマスまでの4週間を意味し、1週間ごとに火を灯します。園ではクリスマス会の日に4本すべてに火を灯し、イエス様のお誕生をお祝いします。4本のキャンドルは、それぞれ意味があり
1本目:希望「予言のキャンドル」 2本目:平和「天使のキャンドル」
3本目:喜び「羊飼いのキャンドル」 4本目:愛「バツレヘムのキャンドル」と呼ばれています。



クランツ

大橋先生教育講演会

『絵のおはなし』より



先日の大橋功先生の教育講演会では、『豊かな心を育む造形あそび』について深く学ぶ時を持ちました。幼児期において絵を描いたり作ったりすることは、技術を身に付けたり、完成度の高い作品を作ることではありません。造形的な活動を通して、感性や表現能力、創造性を豊かに育むことを目的としています。

※造形あそびとは、絵を描く、粘土をこねる、落ち葉や石で模様を作る等、身近な素材(廃材、布、絵の具、砂、折り紙、積み木等)を自由に使って、想像力を働かせ、自由に形を作る遊びのことです

今年度より『絵のおはなし』A5 ファイルに子どもが描き表現したものに、お話を聞いた絵を入れて持ち帰っていますが、これは大橋先生の園内研修で学び実践しているものの一つです。

大橋先生は「子どもは、安心してこそ表現できる」と語られました。心が開放され、安心できる環境があって初めて、子どもたちは自分らしい表現を楽しむことができます。そのために、私達大人ができることとして、「絵のお話を聞かせて」と問かけの大切さを教えていただきました。

子どもが描いた絵に対して「上手だね」と評価するのではなく、その絵の中に込められた物語に耳を傾けること。「これはどんなお話？」と聞いてもらうことで、子どもは「自分のことに興味を持っている」「自分は愛されているんだ」と実感します。その安心感と愛されているという思いが、心を開いて感じたことを表現できるようになり、子どもの「豊かな心」を育てていくのだと思いました。ご家庭でも、お子様の絵や作品を通して「お話」を聞く温かいひと時を持ってみてください。 ※12月号でも教育講演会の学びをお伝えしたいと思います。